



夢清らかに 今庄っ子

今庄小学校 学校だより 第44号 ~ 令和6年1月12日

新しい年 飛躍の年に

今年はずいぶんいい朝となり「気持ちよくスタートできたなあ。」と思っていたのですが、ご存じの通り能登での大きな地震に続き、羽田空港での飛行機の衝突事故とつらい新年となってしまいました。なくなられた多くの方に哀悼の意を表します。また、たくさんの方が避難所生活を余儀なくされ、不安で不便な生活を送られています。1日も早く復旧することを願っています。

そのような中で3学期が始まり1週間がたちました。元気な子供たちの顔や声で「今年もがんばろう。」という思いがまた強くなりました。始業式では「辰」や「竜」にちなんだ話をしました。その中で「辰年というのは力がみなぎり、大きく成長する年だと言われています。そんな年になるように、この3学期は1年間のまとめをするのと同時に、6年生は中学校、1～5年生の皆さんは新しい学年への準備をして、一人一人が成長してくれることを願います。」と話をしました。そのためには「やるか、やらないか」が肝になってくるのではないかと思います。あの伝説のボクサー、モハメド・アリさんが次のような言葉を残しています。

不可能とは、自らの力で世界を切り開くことを放棄した臆病者の言葉だ。
不可能とは、現状に甘んじるための言い訳にすぎない。
不可能とは、事実ですらなく、単なる先入観だ。
不可能とは、誰かに決めつけられることではない。
不可能とは、可能性だ。
不可能とは、通過点だ。
不可能なんて、ありえない。

昨日の業間活動でとてもうれしいことがありました。なかよし班ごとに8の字跳びをして、活動後に振り返りを行いました。一人一人が感想などを班のみんなに発表するのですが、これまでなかなか発表しなかった子が「引っかけらずに跳べてよかったです。」と発表しました。たった十数文字の言葉です。発表に慣れている子にとってはなんともないことだと思いますが、その子にとってはたった十数文字でもとても勇気が必要だったのだらうと想像しました。勇気を持って一歩を踏み出すことができました。一つ壁を乗り越え、成長した瞬間を新しい年に目にすることができました。そして、その発表を聞いてた班のメンバーの眼差しがとても温かく微笑ましいもので、「なんて優しい子供たちなんだろう」とこちらもうれしく感じました。

また、こんなこともありました。1年生の子がなわとびの「後ろサイドクロス」を教えてほしいと校長室のドアをノックしてきました。実際に見せてもらうともう少し時間がかかりそうだなと感じました。そこで後ろ跳びをしたり、前のサイドクロスをしたりとアドバイスをしながら練習しました。すると「後ろサイドクロス」ができるようになるためのいろいろな動きが少しずつできるようになっていきました。手応えを感じて「そのうちできるんじゃないかな。」とってくれたらいいなと思いました。きっと「後ろサイドクロス」ができるようになり、それが次の領域へ挑戦し続けることにつながっていくのだらうと思います。

やはり「やるか、やらないか」なのです。それを決めるのは最終的には本人です。私たち周りの者は手助け、支援はできても行動に起こすのは本人なのです。これからの成長を楽しみにすることができた新学期の始まりでした。

読み聞かせ

11日に読み聞かせがありました。



<読まれた本> ちいさいおうち 王さまライオンのケーキ